

株主インフォメーション STOCK INFORMATION

株主優待のご案内

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

●株主優待の内容

対象株主	優待の内容
毎年基準日(3月31日) 現在で当社株式1単元 (1,000株)以上所有の 株主様	5,000円相当の当社製品贈呈
	贈呈時期
	毎年7月予定

WEBサイトのご案内

<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー 検索



ニュース&トピックスのトップページから会社案内、IR情報、製品紹介のほか、キョクヨーグループの最新情報を掲載しています。また、皆様のご意見や質問をお受けする「お問い合わせ入力フォーム」も用意しておりますので、是非ご活用ください。

株主メモ

事業年度	4月1日~翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	3月31日
期末配当金基準日	3月31日
公告方法	日本経済新聞
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂 七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711 (フリーダイヤル)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



いつも となりに おいしいキョクヨー

BUSINESS REPORT

2010年4月1日 ▶ 2011年3月31日

第88期 報告書



株式会社 極 洋

〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号





代表取締役会長CEO
福井 清計

代表取締役社長
多田 久樹

ご挨拶



企業理念

人間尊重を経営の基本に、
健康で心豊かな生活と
食文化に貢献し社会とともに
成長することを目指します。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに第88期(2011年3月期)報告書をお届け致します。

はじめに、3月11日に発生した東日本大震災により被災された皆様には心より
お見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、当期(2011年3月期)の当社の業績他事業活動のご報告に先立ち、キョク
ヨーグループでは本年4月1日より新しい経営体制をスタート致しましたことをご報
告致します。新たに代表取締役会長(CEO)には福井清計(前代表取締役社長)
が、代表取締役社長には多田久樹(前専務取締役)が就任致しました。これまで以
上にスピード感をもった事業運営により強力なガバナンス体制の構築で引き続き企
業価値の向上に努めてまいります。

既にスタートした第89期(2012年3月期)は、中期経営計画「キョクヨーグルー
プ チャレンジ2012」の最終年度となります。凶らずも未曾有の被害となった東日
本大震災そして福島原子力発電所における事故などにより、不安定な環境のもとで
のスタートとなりましたが、これまで進めてきた方向性は変えず、グローバル戦略と
加工戦略の更なる推進により、収益の増強を図ることで、来年度以降の新しい中期
経営計画に向けての足固めの年と致したいと考えています。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますよう
お願い申し上げます。

2011年6月

中期経営計画「キョクヨーグループ チャレンジ2012」の 進捗状況と今後の経営方針について

当期(2011年3月期)の概況及び 「キョクヨーグループ チャレンジ2012」の進捗状況

当社グループでは2009年4月に、3ヶ年の中期経営計画
「キョクヨーグループ チャレンジ2012」を策定しました。
グループの有する独自性・優位性を一層強化し、既存事業の
収益安定化を確固たるものとするとともに、成長の期待される
関連分野への進出をスローガンに掲げ、当社グループが一丸と
なつて目標達成に挑戦するスタートを切りました。

当計画2年目となる当期は、世界経済が緩やかな景気回復基
調にあるなか、わが国においても秋口以降、企業業績に改善の
兆しが見えるなど一部で明るさを取り戻してきました。

水産・食品業界においては、鮪をはじめ国際的な資源管理
が強化される一方、欧米、アジアをはじめとする魚食志向はま
すます強まり、魚種によっては需給バランスが崩れる傾向も見
えてきました。

こうしたなか当社グループでは、各事業セグメントにおいて
積極的な売上拡大を図るとともに、新たにグループに加わった
連結子会社の貢献もあり、ここ数年の減収トレンドに歯止めを
かけることができましたが、利益面では残念ながら、計画を下回る
結果となりました。

水産商事事業セグメントでは、永年培ってきたノウハウと国
内外の仕入先との信頼関係のもと、市況を見据えた適時適量
買付と、鮭鱒やかれいなどの切身製品やフィレ製品、カニの
剥き身製品など付加価値製品の取扱増を図り収益の拡大につ
ながることができました。

冷凍食品事業セグメントにおける水産冷凍食品事業では、消
費者ニーズの多様化にマッチした商品開発と回転寿司チェーン
や量販店など大手ユーザーとの取り組み強化により、主力の寿
司種製品や焼魚・煮魚製品など加熱用商品の取扱いを拡大す
ることができました。調理冷凍食品事業では、かに風味かまぼ
こ「オーシャンキングの極」、エビカツなど水産フライ類の拡販
に努めましたが、原料高騰などの影響で苦戦した上期の不振を
カバーするまでには至りませんでした。

当期よりセグメントを独立させ事業の強化に取り組んだ常温
食品事業セグメントでは、魚貝缶詰と(株)ジョッキの海産珍味の
拡販に注力するとともに、スナック菓子といった新しいカテゴ
リーにも挑戦した結果、売上高を伸ばすことができました。

物流サービス事業セグメントでは、冷蔵倉庫事業が順調に推
移したのに対し、冷蔵運搬船事業は、世界的な異常気象によつ
て主要貨物であるバナナなど農産品の生産量が減少したこと
や、欧州の景気低迷による需要の減少などで運賃市況が低迷
し、損失計上のやむなきに至りました。

鯉・鮪事業セグメントにおける海外まき網事業は、一昨年秋
に竣工した最新鋭まき網船「第七わかば丸」の順調な操業もあ
り漁獲量は前期を上回りましたが、かつおの魚価は想定を下回
り、所期の収益計上には至りませんでした。高知県で本鮪の養
殖事業を営むキョクヨーマリンファーム(株)が育てた「本鮪の極」
は市場での評価も上々で順調な出荷を続け、単年度の損益は
黒字に浮上しております。加工および販売事業は、大手回転寿
司チェーンや量販店向けの取扱いが増加し、売上規模の拡大に
寄与しました。



当期のM&A戦略 — “強みをさらに強く”

当社グループは、各事業セグメントがそれぞれの活動領域において足元を固めつつ業容を拡大させておりますが、特にこの2011年3月期はM&Aも含め、近年になく大型の投資を実行しました。

その第1は、鮪の原料調達強化を目的としたキョクヨーマリン愛媛(株)の設立です。本鮪養殖事業ではキョクヨーマリンファーム(株)に続き当社グループ2社目となり、来年秋からは年間150トンの出荷を予定しています。

第2は、加工生産体制の強化、およびコンビニ、回転寿司、外食などのコアとなるルートの拡大を目的とした一連のM&Aです。

海洋フーズ(株)は、鮭・鱒事業の主力製品である定塩製品の取扱の拡大を図ったものであり、従来の極洋食品(株)八戸工場他と合わせ、国内ではトップクラスのシェアを獲得するに至りました。今般、北海道知床産の秋鮭を原料とし、海洋フーズ(株)の低温循環製法により旨みを引き出した新製品「世界自然遺産知床シリーズ 定塩 知床サーモン」の発売を開始しましたが、予想以上に反響が大きく、今後の展開が楽しみです。

極洋フレッシュ(株)は、当社が有する好立地条件と最新設備、生鮮やチルドによる生産・販売流通ノウハウなどを最大限活用す

ることで、今後、当社グループの鰹・鮪事業と、寿司種等の水産冷凍食品事業との間で、大きなシナジー効果を生むものと確信しております。

エス・ティー・アイ(株)は、大手コンビニ向け商品開発、物流、販売ノウハウを持っており、極洋フレッシュ(株)のネギトロ、キョクヨーフーズ(株)のオーシャンキング、その他各種切身製品等が既に同社の販売ルートに乗っております。今後さらに多くの局面でキョクヨー製品が皆様の目にとまる機会が増えてくると期待しています。

東日本大震災の当社における影響

当社グループにおきましては、幸い従業員の人的被害は免れましたが、当社塩釜研究所(宮城県塩竈市)、連結子会社の極洋食品(株)本社工場(宮城県塩竈市)、八戸工場(青森県八戸市)、ひたちなか工場(茨城県ひたちなか市)が被災しました。

建物・機械等の損壊に加え、上記工場や社外製造委託工場で生産中であった商製品、冷蔵庫などで保管、輸送中の商製品、原材料などのたな卸資産の一部において、荷崩れや停電による解凍・破損、津波による冠水・流出などで損害を被りました。

グループ全体では6億2千1百万円を災害損失として計上しておりますが、グループ挙げての点検、修繕により、3工場は4月から順次操業を再開しています。

また、福島原子力発電所の事故に伴う風評被害の影響も心配されますが、安心・安全な食品を安定供給することが当社グループの社会的使命であるとの認識のもと、関係法令や各省市庁・行政機関からの指示を遵守するとともに科学的・客観的な検証に基づいて適切に対応、行動してまいります。

第89期(2012年3月期)の計画について

第89期(2012年3月期)は、当社グループの中期経営計画「キョクヨーグループ チャレンジ2012」の最終年度であります。引き続き挑戦者の気概をもって、震災によるダメージを一刻も早くリカバリーし、仕上げの一年に相応しい実績をあげることで、次期から始まる3ヶ年の新中期経営計画に向けての足がかりとします。

水産商事事業セグメントでは、当期に続き付加価値商品の開発と販売ルートの開拓に努めます。

冷凍食品事業セグメントの、水産冷凍食品事業では当社グループの強みである寿司関連事業に軸足を置き、既存のK&U

Enterprise社(KUE社)製品の拡販と、ベトナム、インドネシアなどからの供給ソースの拡大、極洋フレッシュ(株)でのチルド新製品などの取扱いを拡大していきます。調理冷凍食品事業は、国内外工場製品の生産体制の最適化を図り、安全性と品質の向上を追求します。

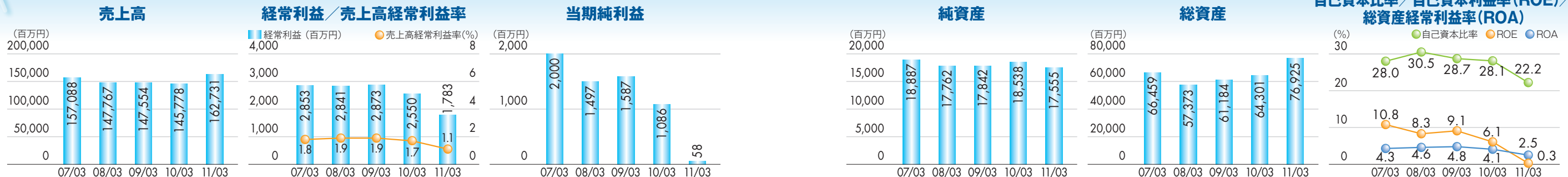
常温食品事業セグメントでは、西日本での売上拡大によるキョクヨーブランドの全国展開を目指すとともに、極洋水産(株)所属のわかば丸船団の漁獲物を使用したツナ缶、農産缶などタイを中心とした輸入缶詰、スイートコーンやトマトなどリカルトパック製品、ジョッキ製品の増販と販路拡大を図ります。

物流サービス事業セグメントの冷蔵運搬船事業では、運賃、貸船料値上げと経費削減により収益確保につなげます。

当社グループのもうひとつの強みである鰹・鮪事業セグメントでは、海外まき網事業における漁場確保と極洋フレッシュ(株)製品の拡販、並びに、養殖事業の拡大のための投資を継続し、収益基盤をより確固なものにします。

以上により、第89期の連結業績は、売上高1,740億円、営業利益32億円、経常利益30億円、当期純利益17億円を見込んでおります。

主な連結財務指標



セグメント別の状況 BUSINESS OVERVIEW

※加工食品事業は、11年3月期より「冷凍食品事業」と「常温食品事業」の2事業に分割されました。

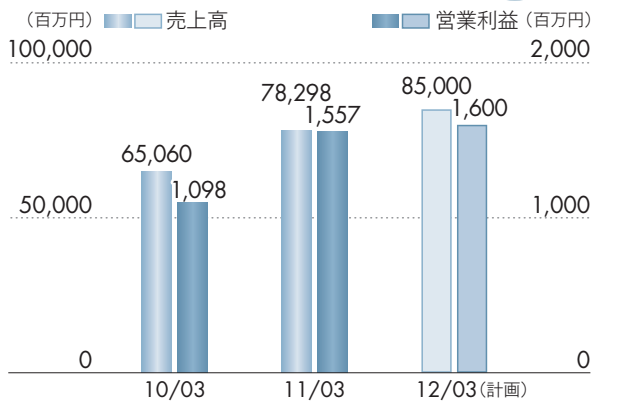
水産商事業は永年培ってきたノウハウと国内外の仕入先との信頼関係を礎に、国内の支社、営業所、海外関係会社や駐在員事務所等で構成されるグローバルネットワークにより、世界の海から良質の水産物を安定的に調達するとともに、切身やフィレーなどさまざまなニーズに合った製品を国内外の協力工場で加工し提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚介類の輸出や三国間貿易などを通じ、魚食のグローバル化にも対応しています。



一本勝負(ブラックタイガー伸ばし海老) 中国における切身加工場の様子

水産商事業
売上高 78,298百万円
営業利益 1,557百万円
売上構成比 48.1%



冷凍食品事業は水産冷凍食品・調理冷凍食品の2事業で構成され、水産物や畜産品等、さまざまな食材をニーズに合わせて加工し、徹底した品質管理体制のもと、お客様に安心・安全な商品を提供しています。

水産冷凍食品事業は、国内外で加工した寿司種商材や、煮魚・焼魚などの加熱用商品を日本国内の回転寿司などの外食産業や量販店、病院などの医療給食向けに販売しています。またタイのKUE社で生産した冷凍寿司や寿司種商材は欧米をはじめアジア、オセアニアなどへも輸出しています。



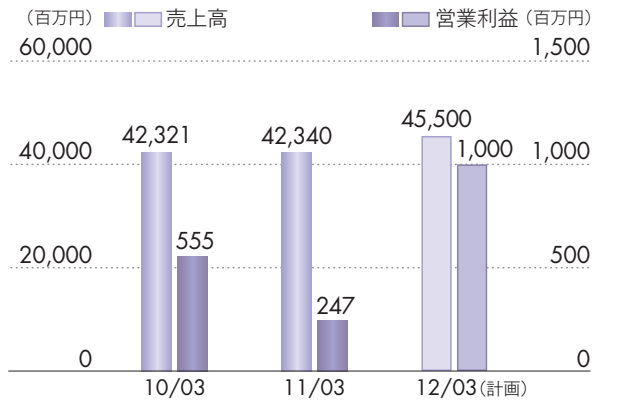
ヒラ〜リクリーミーフライ

調理冷凍食品事業は「えびフリッター」、「クリーミーコロッケ」などのフライ類やかに風味がまばこ「オーシャンキング」のほか、畜肉製品や冷凍野菜などを量販店の惣菜売場や外食産業および学校給食向けに販売しています。

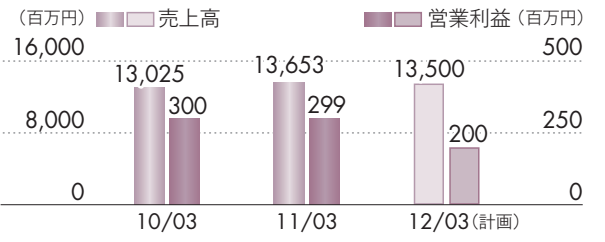


KUE社での冷凍寿司製造の様子

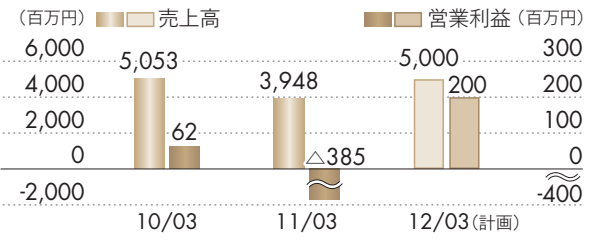
冷凍食品事業
売上高 42,340百万円
営業利益 247百万円
売上構成比 26.0%



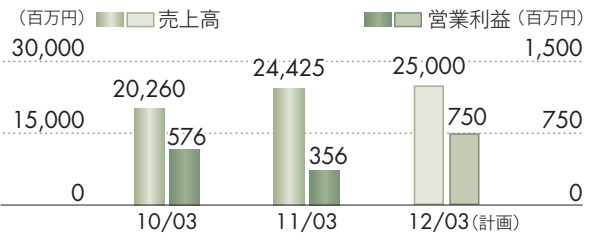
常温食品事業
売上高 13,653百万円
営業利益 299百万円
売上構成比 8.4%



物流サービス事業
売上高 3,948百万円
営業利益 △385百万円
売上構成比 2.4%



鯉・鮪事業
売上高 24,425百万円
営業利益 356百万円
売上構成比 15.0%



常温食品事業はかつお・さけ・かになどの魚介缶詰やスイートコーンなどのリカルトパック製品、「グルコサミン」などの健康食品、関係会社(株)ジョッキの海産珍味やスナック菓子類など多岐に亘るラインアップで、美味しさと健康をお届けしています。



大阪・東京・福岡の3拠点を持つキョクヨー秋津冷蔵(株)による冷蔵倉庫事業と、バナナをはじめとする果物や野菜類など様々な食品を世界中に運搬している極洋海運(株)の冷蔵運搬船事業はともに蓄積されたノウハウをもってお客様の大切な荷物の保管、輸送を行っています。



キョクヨー秋津冷蔵(株) 福岡事業所

冷蔵運搬船

鯉・鮪事業では漁獲・養殖から買付、加工、販売までの事業を一貫して行っています。海外まき網事業では、極洋水産(株)所属の海外まき網船で、主にかつおを漁獲しています。

まぐろ養殖事業では、生鮮まぐろ原料の確保を目的に高知県大月町、愛媛県愛南町の2箇所です本鮪の養殖事業を行っています。

加工および販売事業では、漁獲や養殖生産並びに、世界各地から買付したかつお・まぐろを、極洋水産(株)大井川工場や、極洋フレッシュ(株)をはじめ国内外の協力工場で付加価値を高めた加工品として市場に出荷しています。



第七わかば丸

本鮪の極

2010-2011 TOPICS

事業 キョクヨーマリン 愛媛(株)設立

キョクヨーマリンファーム(株)に続く2社目の本鮪養殖事業会社として、愛媛県愛南町に設立しました。初年度の稚魚活け入れも順調に進み、2012年秋の初出荷に向けて成育しています。

所在地：愛媛県南宇和郡愛南町

ヨコワ活け入れの様子



養殖場

事業 極洋フレッシュ(株)設立

旧カネサン水産(株)より事業および関連資産を譲受け、7月より事業開始しました。

生鮮・チルドおよび冷凍の3温度帯の加工により、主に鰹・鮪事業、水産冷凍食品事業の生産体制強化、販路拡大を図ります。

所在地：東京都江戸川区



極洋フレッシュ(株)外観



「本鮪の極」解体の様子

5月

6月

商品 “スモークサーモン”が2年連続 モンドセレクション金賞を受賞

2010年の第49回モンドセレクションにて、当社製品である“スモークサーモン”のスライスおよびカットの2品が、前年(2009年)に引き続き金賞を受賞しました。

2年連続で金賞を受賞したことで、改めて品質にこだわる当社製品のグレードの高さをアピールできました。

また、同時出品の“刺身サーモン”とジョッキ製品“鮭とば”が銅賞を受賞しました。

さらに、“スモークサーモン”(スライス・カット)は3年目となる2011年も金賞を受賞し、あわせて国際優秀品質賞も受賞しました。



事業 エス・ティー・アイ(株)設立

旧新東京インターナショナル(株)より9月に事業および関連資産を譲受けました。

これにより、大手コンビニチェーンとの取引に関する製造、物流、販売等各種ノウハウを取得し、グループ各事業とのシナジー効果を図ります。

所在地：東京都港区



エス・ティー・アイ(株)本社の入居するビル外観



エス・ティー・アイ(株)関係会社である(株)新東京エナック外観

8月

7月

事業 海洋フーズ(株)を子会社化

鮭鱒事業の主力製品である定塩鮭製品の生産規模拡大と販路拡充を図る目的で、海洋フーズ(株)を子会社化しました。

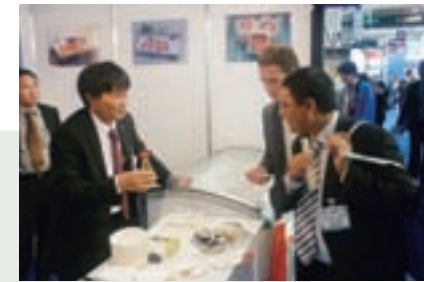
所在地：茨城県神栖市



海洋フーズ製品ギフトセット

PR

ヨーロッパ・シーフードショー



ジャパン・インターナショナル・シーフードショー

各種国際的な展示会に出展

7月に東京で開催された「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」をはじめ、ヨーロッパ・シーフードショー(5月、ブリュッセル)やFINE FOOD SHOW(6月、NZオークランド)などの国際的な展示会に相次いで出展し、PRを図りました。



日本カヌー連盟主催の 各種カヌー競技大会に協賛

「自然との共生」「水資源の大切さ」を社会に訴えていく環境保全活動の一環として、(社)日本カヌー連盟が主催する「NHK杯全日本カヌースラローム競技大会」(2010年4月)や日本カヌースラローム・ワイルドウォーター選手権大会(2010年10月)に協賛しました。

また、15年前より山梨県山中湖において夏に開校しているカヌースクールも、これまでに延べ1,000名近い参加者を数えています。



『日本さかな検定』(愛称:ととけん)に協賛

2010年5月に東京・大阪で実施された初の『日本さかな検定』(主催:(社)日本さかな検定協会)に協賛しています。

この検定は、四季折々の旬が楽しめる多様な魚介類とそれらを巡る匠の技や多彩な文化への興味・関心を広く喚起し、魚食の普及に少しでも役立ちたいとの趣旨で誕生したものです。

水産物を中心とした総合食品会社である当社も同趣旨に賛同し、当検定が日本の伝統である魚食文化の復活・継承につながることを期待しています。

社会・環境報告書2010発刊

2010年9月、「極洋グループ 社会・環境報告書2010」を発行しました。

これは、2001年12月より当社グループが取り組んでいる環境保全活動の成果や社会的活動を盛り込んだもので、2007年初版から数え、今回4回目の発行です。

同報告書は当社グループが社内・外と対話する際に企業としての思いや実際の取り組みなどを伝え、広くコミュニケーションするためのツールとしての役割を担っています。

今後とも、当社グループ環境経営の更なる充実を図り、社会から信頼と期待に応えられるよう努力を続けてまいります。



当報告書の内容は当社ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kyokuyo.co.jp/environment/>

当社グループが販売している商品の一部をご紹介します。

当社商品は業務用が中心ですが、常温食品など一部は市販用としてお買い求めいただけます。

水産冷凍食品

水産加工品

知床サーモン 生ハム風スモーク

世界遺産である知床の海で漁獲された秋鮭を原料にしています。お口いっぱい広がる芳醇な香り。こだわりの原料とモンドセレクション金賞受賞製法が美味しさを際立てます。



常温食品

ライトフレーク

(かつお油漬フレーク)

季節の野菜やお好みの調味料を使用してツナサラダ、ツナサンド、コロッケ、チャーハン、野菜炒め等に幅広くご利用いただけます。

寿司種各種



寿司種はタイの合弁会社KUE社を生産拠点の一つとし、えび、いか、サーモンなど新鮮な原料を使って、そのまま流水・自然解凍するだけで本格的な寿司種になります。また、豊富な商品群は彩りもよく、さまざまな商品を組み合わせただけで豪華な寿司盛を演出できます。

調理冷凍食品

オーシャンキングの極

高品質のすり身を使用し、かに脚肉をイメージして仕上げました。ジューシーな味わいと繊維感のあるオーシャンキングです。5本入りトレーパックや天ぷら用もあります。



鯉・鮪加工品

プロトン凍結(極)本鮪サク 大トロ・赤身・中トロ

高知県のキョクヨーマリンファーム(株)で養殖した生鮮本鮪をサク加工し、プロトン凍結したこだわりの商品です。解凍時の身の縮みがない上、ドリップも少なく生に近い食感が味わえます。



プロトン凍結

水素陽イオンをプロトンと呼ぶことから愛称になっています。食品細胞の破壊を防ぎ、ドリップ量を少なくする凍結方法です。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2011年3月31日現在	前連結会計年度 2010年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	56,145	44,953
固定資産	20,779	19,347
有形固定資産	12,331	11,568
無形固定資産	777	616
投資その他の資産	7,669	7,162
資産合計	76,925	64,301
【負債の部】		
流動負債	50,190	38,637
固定負債	9,178	7,125
負債合計	59,369	45,763
【純資産の部】		
株主資本	17,785	18,391
その他の包括利益累計額	△707	△339
少数株主持分	477	485
純資産合計	17,555	18,538
負債純資産合計	76,925	64,301

連結貸借対照表のポイント

流動資産

- 商品及び製品が増加したことなどにより前期比111億円増加しました。

固定資産

- 連結子会社の増加などによる「有形固定資産」の増加7億円、繰延税金資産の増加などによる「投資その他の資産」の増加5億円などにより、前期比14億円増加しました。

流動負債

- 運転資金の増加などによる「短期借入金」の増加を主な要因として前期比115億円増加しました。

固定負債

- M&Aの実施などによる長期借入金の増加や退職給付引当金の増加を主な要因として前期比20億円増加しました。

純資産

- 当期純利益の5千万円に対して配当金の支払で5億円、その他有価証券評価差額金などの影響により、前期比9億円減少しました。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	5,664	749	12,589	△612	18,391	△333	24	△30	△339	485	18,538
当期変動額											
剰余金の配当			△529		△529						△529
当期純利益			58		58						58
自己株式の取得				△135	△135						△135
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△409	58	△17	△367	△8	△376
当期変動額合計	—	—	△470	△135	△606	△409	58	△17	△367	△8	△982
当期末残高	5,664	749	12,119	△747	17,785	△742	83	△48	△707	477	17,555

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
売上高	162,731	145,778
売上原価	144,085	127,927
売上総利益	18,645	17,851
販売費及び一般管理費	17,056	15,670
営業利益	1,588	2,180
営業外収益	631	769
営業外費用	436	399
経常利益	1,783	2,550
特別利益	42	8
特別損失	970	385
税金等調整前当期純利益	854	2,173
法人税、住民税及び事業税	1,195	1,204
法人税等調整額	△396	△281
少数株主利益又は損失(△)	△2	164
当期純利益	58	1,086

連結損益計算書のポイント

売上高

(前期比169億円増加)

- 水産商事事業、常温食品事業、鯉・鮪事業では前期実績を上回りましたが、冷凍食品事業がほぼ横ばい、物流サービス事業で前期実績を下回り、全体では前期比11.6%増となりました。

営業利益

(前期比5億円減少)

- 水産商事事業において前期を上回りましたが、冷凍食品事業、物流サービス事業、鯉・鮪事業は前期を下回り、全体では前期比27.2%減となりました。
- 営業利益率は1.0%と前期(1.5%)を下回りました。

経常利益

(前期比7億円減少)

- 前期比30.1%減となりました。
- 経常利益率は1.1%と前期(1.7%)を下回りました。

特別損失

(前期比5億円増加)

- 主なものは6億円の災害による損失と投資有価証券評価損です。

当期純利益

(前期比10億円減少)

- 前期比94.6%減となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当連結会計年度 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,079	2,326
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,077	△4,515
財務活動によるキャッシュ・フロー	8,837	1,142
現金及び現金同等物に係る換算差額	△29	11
現金及び現金同等物の増減額	650	△1,035
現金及び現金同等物の期首残高	2,672	3,707
現金及び現金同等物の期末残高	3,322	2,672

連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー

- 売上債権、たな卸資産の増加などにより50億円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

- 固定資産や投資有価証券の取得により30億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

- 短期借入金の増加、長期借入などにより88億円の収入となりました。

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	2011年3月31日現在	2010年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	47,903	38,847
固定資産	14,607	12,438
有形固定資産	4,354	3,048
無形固定資産	346	412
投資その他の資産	9,907	8,977
資産合計	62,511	51,285
【負債の部】		
流動負債	43,923	33,750
固定負債	4,951	3,677
負債合計	48,875	37,428
【純資産の部】		
株主資本	14,408	14,367
評価・換算差額等	△773	△509
純資産合計	13,635	13,857
負債純資産合計	62,511	51,285

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	2010年4月1日から 2011年3月31日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで
売上高	148,009	133,674
売上原価	131,437	118,183
売上総利益	16,572	15,491
販売費及び一般管理費	14,492	13,610
営業利益	2,080	1,880
営業外収益	381	641
営業外費用	274	257
経常利益	2,187	2,265
特別利益	0	0
特別損失	899	327
税引前当期純利益	1,288	1,937
法人税、住民税 及び事業税	994	1,115
法人税等調整額	△412	△292
当期純利益	706	1,115

株主資本等変動計算書 当事業年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本								評価・換算差額等				純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益		評価・換算 差額等合計
		資本剰余金	その他資 本剰余金	資本剰余 金合計	利益準備金	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益剰余金	利益剰余金 合計						
前期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	6,331	8,565	△612	14,367	△534	24	△509	13,857
当期変動額														
剰余金の配当							△529	△529		△529				△529
当期純利益							706	706		706				706
自己株式の取得									△135	△135				△135
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)											△321	58	△263	△263
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	177	177	△135	41	△321	58	△263	△221
当期末残高	5,664	742	7	749	673	1,560	6,508	8,742	△747	14,408	△856	83	△773	13,635

会社概要

2011年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
 英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
 本社所在地 〒107-0052
 東京都港区赤坂三丁目3番5号
 設立 1937年9月3日
 資本金 56億6千4百万円
 主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、
 加工食品及び冷凍食品の製造販売
 従業員数 2,753名(連結)
 533名(個別)
 連結対象会社数 24社
 役員 (2011年5月31日現在)
 代表取締役会長CEO 福井清計
 代表取締役社長 多田久樹
 専務取締役 門田憲一
 専務取締役 今井賢司
 常務取締役 須藤時廣
 常務取締役 上居隆
 常務取締役 村上吉男
 取締役 荒砥誠
 取締役 保坂正美
 取締役 松行健一
 常勤監査役 細川高稔
 常勤監査役 中山昌生
 監査役 久保光太郎
 監査役 千倉信夫

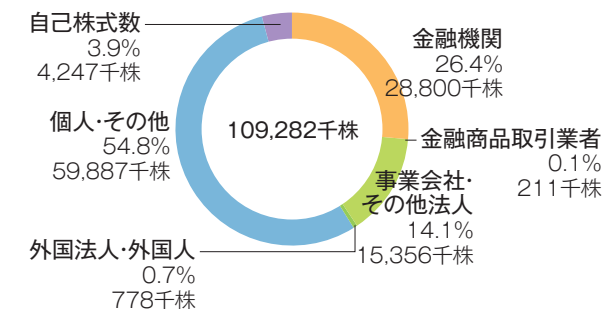
株式の概況

2011年3月31日現在

発行可能株式総数 437,000,000株
 発行済株式の総数 109,282,837株
 株主数 24,533名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	6,106	5.81
三井住友海上火災保険株式会社	5,701	5.42
株式会社りそな銀行	5,234	4.98
農林中央金庫	4,450	4.23
東洋製罐株式会社	3,150	2.99
カッパ・クリエイト株式会社	2,100	1.99
東京海上日動火災保険株式会社	2,075	1.97
極洋秋津会	1,572	1.49
中央魚類株式会社	1,399	1.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,246	1.18

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移

